

臨床研究実施のお知らせ

研究情報の公開について(オプトアウト)

目的を含む研究の実施についての情報を公開し、患者さんが研究への参加をいつでも制限・拒否できる機会があることを「オプトアウト」といいます。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

研究課題名	経カテーテル大動脈弁留置術後の手段的日常生活動作の改善について
本研究の研究責任者	近森病院 リハビリテーション部 理学療法科
当院の責任者	近森病院 リハビリテーション部 理学療法科
研究目的	経カテーテル大動脈弁留置術(Transcatheter aortic valve implantation; TAVI)患者において、術前の手段的日常生活動作(Instrumental activities of daily living; IADL)は中長期的な予後に影響することが報告されています。また、自覚症状を有する大動脈弁狭窄症患者は術前より IADL 低下を来していることが予想されますが、自宅退院後の IADL の改善を縦断的に調査した報告は極めて少ないのが現状です。本研究では TAVI 施行後に自宅退院された患者の IADL の改善状況とそれに関連する入院中の要因を明らかにし、より良いリハビリテーション介入に繋がりたいと思います。
研究期間	2024 年 10 月 1 日 ~ 2025 年 9 月 30 日
研究方法	生活状況の聴き取りを行ないます。術前は入院中に対面にて行ない、自宅退院 1 ヶ月後、3 ヶ月後、6 ヶ月、1 年後は電話にて聞き取りを行わせてもらいます。 対象患者の入院中の情報は、診療録に記録されている情報を収集し検討を行ないます。
情報の提供先	得られた情報は医療、特にリハビリ分野における学会発表や研修会の資料、論文発表として使用し、それ以外は使用しません。
個人情報の取扱い	個人が特定される情報(氏名や住所、カルテ ID 等)は使用せず、さらに使用する情報は匿名化の処理を実施します。
利益相反について	ありません
お問い合わせ先	近森病院 リハビリテーション部 理学療法科 科長 田中健太郎(研究責任者) 近森病院 リハビリテーション部 理学療法科 藤山祐司(研究実施者)